

## のどの疾患

### アフタ性口内炎

口腔粘膜から歯肉にかけて口内炎が好発します。強い口内の痛みのため飲み込むことができず、よだれが多くなります。通常、7～10日間で自然に治りますが、その間に食事、水分摂取ができなくなり、乳幼児では脱水になることもあります。

### 風邪・急性咽喉頭炎

一般に風邪といわれる症状は鼻水・鼻づまり・発熱・咳などですが、原因は咽頭や喉頭、鼻などにウィルスが感染し、炎症を起こすことであり、これにより様々な症状がでます。早期に症状に合った治療をすることで、症状は改善します。『風邪かな・・・？』と思って様子を見ていたら、どんどん悪化してしまった！！という話はよく聞きます。早期の治療が肝心ですので、ご相談していただきたいと考えています。

### 急性扁桃炎

初期の段階では風邪の症状と似ていますが悪化すると、のどの痛みが強くなり高熱が出る病気です。扁桃腺と呼ばれるリンパ組織に細菌が感染することにより起こります。のどの痛みはかなり強く、つばを飲み込むのも辛くなってきます。そのため食事が充分にとることができません。症状が激しい場合は入院しなくてはならないこともあります。なるべく初期の段階で治療を行い、悪化させないようにしたい病気です。

## 声帯ポリープ

仕事などで声をよく使う人になりやすい病気です。風邪の症状はないけど、声だけ嘎れてしまいます。

当院にある電子スコープで声帯を直接見ることによりポリープを発見することが可能です。声が嘎れてしまう病気は他にも多くありますので、症状のある患者さんをご相談ください。

## 慢性咽頭炎

慢性咽頭炎では咽頭の不快感、異物感などが慢性的にあり、それに伴って咳払いも増えます。急性咽頭炎の反復、あるいは上気道や下気道からの炎症の波及、とくに副鼻腔炎の後鼻漏（蓄膿症のうみが鼻からのどに垂れてくること）が原因になります。塵埃や刺激ガスに慢性的にさらされる職業や、のどを酷使する職業も原因になります。また、喫煙習慣による慢性喉頭炎も多くみられます。

## アデノイド増殖症

鼻のいちばん奥の突きあたりの部分、上咽頭と呼ばれる部位にあるリンパ組織のかたまりをアデノイド（咽頭扁桃）といいます。アデノイドがいろいろな原因で大きくなり、耳や鼻のさまざまな症状をひきおこす場合を、アデノイド増殖症といいます。

アデノイド増殖症は、子どもに特有の病気といえます。アデノイドの大きい子は、口蓋扁桃肥大をとまなうことが多いようです。

## 扁桃肥大

口蓋扁桃が大きくなった状態を「扁桃肥大」といいます。抗体産生の盛んな子どもの扁桃は、大きいのが普通であり、単に口蓋扁桃が大きいというだけでは病気とはいえません。

しかし、扁桃肥大があるために、食事をとるのに支障があったり、成長にも影響するような場合は、手術を含め適切な治療を受ける必要があります。特に、睡眠中に呼吸が止まる「睡眠時無呼吸症候群」は大きな問題です。

## 伝染性単核球症

このウイルスは、通常、口や気道から感染します。潜伏期は4～6週間であり、倦怠感、咽頭痛、食欲不振などの初期症状を示します。数日後に、発熱、全身のリンパ節腫脹（しゅちょう）、咽頭炎、皮膚の発疹、脾臓（ひぞう）腫大などが現れます。発熱はしばしば39～40℃に達し、1～2週間続くこともあります。

## 咽喉頭異常感症

のどに異常感を感じても、耳鼻咽喉科の診察では訴えに見合う病変が咽頭や喉頭に認められない病態を総称した病気です。咽頭に異常感を感じさせる疾患（原因）は数多くありますが、主に3つに大別できます。それは(1)局所的原因、(2)全身的原因、(3)精神的原因です。早めに耳鼻咽喉科を受診して、異常のないことを確認してもらいましょう。

## 咽頭癌

咽頭がんとは、一般に喉の部分に発症する悪性腫瘍のことを指し、喉の箇所によって上咽頭がん、中咽頭がん、下咽頭がんに分かれます。それぞれ症状や原因が若干異なりますが、喫煙や飲酒などが主な原因になる事が多く、女性よりも男性の発症が圧倒的に多く見られます。中咽頭がんや下咽頭がんでは、食道がんとの重複がんが多いのも特徴です。

## 急性喉頭蓋炎

喉頭蓋という食道と気管を分けるひだの炎症です。呼吸苦と摂食障害が起こります。まれに腫れによる気道狭窄で窒息が起こり死に至ることもあります。とても怖い病気ですが、のどの奥の炎症なので、内科では診断が困難です。のどの痛みがひどい時には耳鼻科を受診したほうが安心です。

## 喉頭浮腫

「喉頭浮腫」は、いわゆる「のどぼとけ」に相当する部位にあたる喉頭の内部の粘膜がはれ、呼吸が障害される病態であり、感染症の他に医薬品によって引き起こされることがあります。何かのお薬を服用していて、次のような症状がみられた場合には、緊急に医師又は薬剤師に連絡して、すみやかに受診してください。

## 仮性ク룹

声帯の下の気道の部分を声門下といますが、急性声門下喉頭炎では、声門下の粘膜に炎症が起こり、粘膜が腫れたり、気道の分泌物が増えたりすることにより気道が狭くなり、呼吸困難を生じます。仮性ク룹と呼ばれることもあります。とくに1～3歳の小児に多く、やや男児に多い傾向があります。また、秋から冬に多くみられます。

## 唾石症

尿路結石や胆石と同様、唾液腺にも結石が生じます。ほとんどの例は、顎下腺に起こりますが、少数例は、耳下腺にも生じます。舌下腺に生じることはまれで、小唾液腺に発生することはほとんどありません。結石のできはじめは当然小さいのですが、自然に排出されないと次第に大きくなっていきます。

## 胃食道逆流症・逆流性食道炎

胃酸が食道内に逆流してくることにより食道の粘膜が荒れてしまい、このような症状が出現します。他の症状としては胸やけ・げっぷなどです。痛みは感じませんが、非常にのど周りに違和感を感じます。

胃酸を抑える薬を内服し、食道粘膜が荒れるのを防ぎます。粘膜の荒れが改善してくると自然とのどの違和感も減少します。食生活の乱れや生活のリズムが崩れたりすると、なりやすい病気です。

## 甲状腺疾患

のどの前面には甲状腺というホルモンを産生する臓器があります。甲状腺に腫瘍がある場合はのどを前方から圧迫するため、このような症状がでます。また甲状腺の機能が上昇していたり、低下していたりしても、のどの違和感が出てくる場合もあります。